「この人　99」　　八塚一青　東京都

編集部　滑稽俳句を始められたきっかけは？

八　塚　私は松山で生まれ育ちましたが、高校生から詩を書いていました。当時は俳句部がなかったのです。俳句は、二年ほど前から始めました。きっかけは、ツイッターです。ツイッターの一四〇文字という制限のある方が、逆に表現がし易い事に気付き、自然と俳句に傾倒していきました。滑稽俳句の存在を知ったのは、滑稽俳句大賞の公募です。もともと明るい詩を嗜好していたので膝を打つ思いでした。

編集部　滑稽俳句の魅力とは？

八　塚　何と言っても、明るい方を向いていることです。本当にいいものは、明るい方を向いていると信じています。

編集部　俳句における「滑稽」とは？

八　塚　「俳味」だと思います。で、これは僕個人が勝手に思っていることですが、例えば「俳味」を英語にした際、「Haikai Taste」ではなく「Haikai Flavor」だと思うんです。「そこはかとなく漂う」感じが俳句における理想の滑稽だと思っています。

編集部　滑稽俳句を続けて良かった事は？

八　塚　日々の暮らしの中で、いつも「笑いの種」を見つけようという姿勢でいられることです。常に明るい気持ちでいられることは、とても幸せなことだと思います。

編集部　滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

八　塚　単純ですが、美味しいものをたくさん食べて、たっぷり寝て適度に運動して健やかでいることだと思います。健康な魂に滑稽が宿ると思います。

【代表句】

あどけない小鳥も母に抱卵期
焼鳥の屋台尻目に鴨涼し
馬が合う友と食べたい桜鍋
お歳暮でやたら夕餉がプレミアム
残り物つめた福かな買いはじめ

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。